



## 学部長挨拶

学部長・教授 春山早苗

本看護学部には他の大学にはない「へき地の生活と看護」という選択科目があります。これは、「医療に恵まれない地域の医療の確保及び地域住民の保健・福祉の増進への貢献」という建学の精神に基づき、前身の看護短期大学の時代から課外活動として実施されていたへき地における夏季研修を継承し、平成20年度に科目に位置づけたものです。へき地に住む人々の生活とへき地における看護の特徴を理解することを目的に、学内における講義・演習を経て、夏季休業期間に2~3日間、臨地研修を行います。臨地研修では、巡回診療や訪問診療、訪問看護、訪問介護、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション等を経験します。どの学年でも履修可能であり、毎年30名程度の学生が履修しています。これまでに北海道、青森県、宮城県、福島県、栃木県、群馬県、東京都、新潟県、石川県、岐阜県、滋賀県、奈良県、岡山県、島根県、鹿児島県、沖縄県の離島や山村地域等にあるへき地医療拠点病院またはへき地診療所等の協力を得て実施してきましたが、今年度も14施設で実施する予定です。これらの研修施設は、診療所、介護老人保健施設、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、健康増進施設等を一体化した保健医療福祉介護の複合施設である場合も多く、住民ボランティア等も入り、まさに国が推進する地域包括ケアシステム（住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される仕組み）を先取りする場です。学生はその地に宿泊し、住民の生活に直に触れ、保健医療福祉介護の連携や多職種連携の実際を見て、多くの学びを得ています。いつも現地で学生を温かく迎え入れて、ご指導いただいている研修施設の看護師、医師を始めとした職員の方々や地域の方々に改めて感謝申しあげます。

さらに、今年度からは課外活動として行っていた国際交流活動も、国外版として「へき地の生活と看護」に位置づけました。本学部では平成24年度からブータン医科大学との交流活動を行ってきましたが、これに加えて今年度からは、既に本学医学部と交流のあるモンゴル医科大学との交流活動も開始します。8月には学生8名と教員2名がモンゴル国へ渡航し、モンゴル医科大学のウランバートル校及びダルハン校の看護学生と交流する予定です。モンゴルというと日本で活躍している力士が思い浮かびますが、日本の4倍の面積に人口は約320万人という国です。高原の大草原とゴビ砂漠で有名な大自然の魅力あふれる国で、主な産業は鉱業や牧畜業であり、人よりも家畜の方が多いと聞きました。10月下旬~4月が冬となり長く、冬の平均気温は-20℃と寒さが厳しい国でもあります。

以上のような「へき地の生活と看護」という科目は、国内外の地域における様々な保健医療体制に応じた課題解決の考え方や異なる文化をもつ対象への看護について、広い視野で学んでいく機会になると考えています。そして、学生のみなさんが建学の精神の具現化に向けて、将来、保健医療福祉介護資源が少ない地域に目を向けた看護実践を志向していくことを期待しています。

保護者の皆様や関係者の皆様、そして卒業生諸君には、看護学部をお見守りいただき、今後ともご支援とご協力をよろしくお願い申しあげます。

# いま 看護学部の現在

## ポート部での活動

2年 池田 真由（埼玉県立伊奈学園総合高等学校出身）



私は大学では看護学を学びながら、余暇時間は自治医科大学ポート部マネージャーとして活動しています。自治医科大学ポート部は東日本医科学生総合体育大会・保健医療系学生レガッタでの総合優勝を目指として練習しており、夏と春には合宿も行なっています。私は1年生の4月にポート部が行なっている試乗会に参加し、部内の雰囲気の良さに魅力を感じ入部を決めました。

この1年間ポート部マネージャーとして活動し多くのことを学び、吸収出来ました。その中には看護に直結するものもあります。私は、マネージャーには周りを見て状況に合わせた行動をする力が必要だと考えます。プレーヤーが今欲しているものはなんなのか、考えながら行動することでプレーヤーが少しでも活動しやすい環境を整えることができます。これは看護でも同じことです。『患者さんの欲していることを言動や表情から察し、自分の行動の優先順位をつけていく。』部活動は看護の勉強には役に立たないと思う方もいるかもしれません、私は部活で成長出来ました。学業と部活を両立させることは楽ではありませんが、私はポート部に入って良かったと思っています。個人的な考えですが、部活動に所属した方が生活にメリハリが付き、勉強のやる気も上がると感じます。

ポート部はよく忙しい部活だと言われますが、私は苦だと感じたことはありません。部員全員が東医体優勝という同じ目標を持っており、プレーヤーはそのための努力をしています。私は本当にプレーヤーを尊敬していますし、支えたいと思わせてくれるプレーヤーに出会えたことを嬉しく思います。部活は看護の勉強の妨げになるものではなく、むしろ底上げしてくれるものです。これからも学業と部活の両立に努めていきたいです。

## 初めての病棟実習を経験して

3年 斎藤 千尋（栃木県立大田原女子高等学校出身）



私は平成29年の9月末から約1ヶ月間、附属病院で日常生活援助実習および成人期継続療養実習を行いました。私が特に思い出に残るのは日常生活援助実習です。この実習は、1年次に学習した清拭や洗髪などの日常生活の援助を実際に患者さんに行うもので、技術的な心配もさることながら、私は実習が始まる前は、患者さんとうまく話すことができるのかそちらの方がとても不安でした。しかし、担当した患者さんには、私と同じ年代のお子さんがいらっしゃることが分かり、その点をきっかけとして、次第に患者さんと打ち解けるようになっていきました。担当した患者さんは、化学療法と放射線療法を受けており、副作用による吐き気や発熱、倦怠感などがあり、体調が優れない日が多くありました。そのため、患者さんが今1番必要としていることはなんだろうか、自分にできることは何かを考えましたが、どうしたら患者さんが楽になるのか分からず、途方に暮れていきました。しかし、ある時、先生から「精神的なストレスを緩和してあげることも大事なケアですよ。」という助言をいただきました。そこで、日々の患者さんとの会話を振り返ってみると、副作用の辛さや、家に帰ってリラックスしたいというような言葉を思い出し、リラクゼーションを目的として、足浴や洗髪などを患者さんの体調に合わせて行ってみました。するとケア後、患者さんから「気持ちよかった。」といつてもらうことができ、少しでも精神的な苦痛を減らすことができたのではないかと思っています。

今回の日常生活援助実習を通して、患者さんにケアを行う上で大切なことは、個別性に沿って、その人が求めていることは何なのかを考えることであると気付けました。またその上で大切なことはコミュニケーションであり、患者さんの感じている苦痛やストレスを汲み取ることで、より患者さんのニーズに沿った看護が提供できるのではないかと考えることができます。3年次では2年次よりも幅広い診療科で実習することになるため、その診療科の患者さんに合った看護を提供できるよう、より一層努力していきたいと考えます。

## 精神保健看護実習を終えて

4年 石島 健資 (茨城県立下館第一高等学校出身)



3年生後学期において、特に私を成長させてくれたのが精神保健看護実習でした。精神保健看護実習では精神科デイケアに通所されている患者さんと看護を通して関わることができました。患者さんのお話を聴くなかで、その方の人生経験や疾患に対する思い、生活の楽しみなどを理解することができました。またそのような話の中からその方の強みを見出せるように努めました。患者さんの強みを考える方法についてはストレンジスモデルを用いたアセスメント方法が知られていますが、精神保健看護実習を行う前に地域精神看護方法の講義でその方法を学ぶことができました。実際に実習でストレンジスモデルを用いてアセスメントをしてみると慣れない手法からか戸惑う場面もありましたが、精神看護学の先生方やデイケアスタッフの方の指導のもと患者さんの強みについて考えることができました。

また精神科デイケアの実習では、レクリエーションをスタッフの方々のご協力を得て学生自身で計画し、実施することができました。私たちの実習グループが考えたレクリエーションは輪投げでしたが、患者さんが楽しめるように、また安全にレクリエーションを行えるように何度も計画を修正し、学生同士で何度もリハーサルを行いました。計画を立てる際には、デイケアでの患者さんの個別性や患者さん同士の関係性、障害特性を踏まえ、どうしたら患者さんのためのレクリエーションになるか考えました。実際にレクリエーションを実施してみると患者さんの予想外の反応やゲームの難易度が予想以上に高かったことがあります、レクリエーションを実施する難しさが分かりました。一方で、患者さんが笑顔で輪投げを楽しんでいる様子をみると、学生同士で試行錯誤した苦労が報われた気がしました。

私は精神保健看護実習を通して看護学生として成長できただけでなく、人間として成長できたと感じています。今後の学生生活においてこのような経験を風化させぬように、時に振り返り、自己学習の契機にしたいと考えています。

## 総合セミナーを終えて

平成29年度卒業生 小野口 彩 (栃木県立鹿沼東高等学校出身)



私は、地域看護学領域において「中山間地域に住む独居の後期高齢者のセルフケア」というテーマで研究を行い、総合セミナーを進めてきました。医療や福祉サービスの限られた地域の中で、後期高齢者は住み慣れた地域で生活し続けたいという希望を持ち、生活の中で健康を維持するために様々な工夫をしていることが明らかになりました。この研究を行い、看護職として地域で行っている保健事業で身体的な健康を維持するためには健康状態を観察したり、身体活動を促したり、住民同士が関わることのできる機会をつくり、楽しみとして参加できるような事業を展開する必要があると学びました。また、高齢者を支える医療機関や在宅サービスなどの関係機関との連携を行い、高齢者の希望に応じて一貫した支援を行う必要があると学びました。

また、学生同士のカンファレンスでは、母子保健、成人保健、高齢者保健と様々な発達段階に応じた研究の中で、それぞれの学生が研究を進めるにあたって悩んでいることや不安を共有し、他の学生や先生方の意見を参考にして研究をよりよいものにしました。研究の対象者や明らかにしたいことに相違点はあったものの、自分自身の研究に対して思い悩み、切磋琢磨している姿は共通していると感じ、研究を行う難しさや自己の研究を客観的に見ることの大切さを学びました。

総合セミナーを行うにあたって、熱心なご指導をしていただいた先生方、研究に協力していただいた地域の皆様に感謝し、研究を行って明らかになったことを自身の今後の看護活動に生かしていきたいと思います。そして、対象者の希望や生活に寄り添った看護を提供できる看護職を目指し、日々成長していきたいと思います。

## 平成29年度自治医科大学卒業式および学位記伝達式

平成30年3月2日（金）、地域医療情報研修センター大講堂において、総務大臣（代理：安田総務省総務事務次官）、栃木県知事（代理：小竹栃木県保健福祉部次長）、渡邊栃木県看護協会会长をはじめ各界を代表される先生方、保護者ご出席のもと、平成29年度自治医科大学卒業式が厳かに挙行されました。（医学部41期生128名、看護学部13期生102名）式では、看護学部を代表して馬目絹子さんに、永井学長から卒業証書・学位記が授与されました。卒業式終了後、看護学部校舎において、学位記伝達式が開催されました。



## 謝恩会

平成30年3月2日（金）、卒業式および学位記伝達式に引き続いて記念棟12階において、謝恩会が開催されました。



## 平成30年度 新入生交流バーベキュー大会

平成30年5月17日（木）テニスコート南側において、新入生交流バーベキュー大会が開催されました。この日は晴天に恵まれ、大石理事長、永井学長、春山看護学部長をはじめ多数の教職員および17期生105名が参加し、約2時間のバーベキューを楽しみました。



大石理事長、永井学長、春山看護学部長を囲んで



初めての司会で緊張しました



早くもチームワーク抜群です



私たちが焼いた牛肉をご賞味下さい

## 平成30年度 自治医科大学入学式

平成30年4月6日（金）、地域医療情報研修センター大講堂において、総務大臣（代理：宮地大臣官房総括審議官）、栃木県知事（代理：山本保健福祉部長）、栃木県看護協会会长（代理：鰐淵専務理事）をはじめ各界を代表される先生方、保護者の出席のもと、平成30年度自治医科大学入学式が執り行われました。

今年度は、医学部125名（第47期生）、看護学部105名（第17期生）が入学し、看護学部を代表して、粕谷渚砂さんが誓いの言葉を読み上げました。



## 日本型地域ケア実践開発研究事業の成果報告会

平成29年9月2日（土）に地域医療情報研修センターにおいて、日本型地域ケア実践開発研究事業の成果報告会が開催されました。この事業は私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として文部科学省から平成25年に採択され、大学院看護学研究科の教員が中心となって5年間の歳月をかけて実施されたものです。本研究事業は、へき地で働く看護師がチーム医療の中で機能できるためのトレーニングプログラムの開発、および地域特性に応じた看護師の教育・支援システムの構築を目的として行われました。また、当日は永井学長からのあいさつ、春山研究科長による研究事業の概要説明やシンポジウムが行われた他、英国からグラスゴーカレドニア大学のカレン・ローム教授をお呼びし、英語による特別講演も行われました。成果報告会は盛況のうちに終了しました。



永井学長からのあいさつ



石川教授（右）とともに座長を務めた春山研究科長（左）



カレン・ローム先生による特別講演



講演中の本田教授



当日の受付の様子



フロアから質問をする参加者

## ラボルームの紹介コーナー

今回は母子ケアラボルームⅣ（旧：小児看護学演習室）を紹介します。母子ケアラボルームⅣは、心臓の音や心臓が拍動する数、あるいは呼吸の音や数を測定できるモデル人形を使って、主に2年生の学生たちが病院の中で治療や処置を受ける子どもを看護する方法について演習を行っています。病気治療中の子どもたちを想定した状況で演習を行うため、子どものモデル人形に点滴管理の練習も行っています。日々、学生たちはこの演習室でこれらの技術を習得できるよう努力しています。



小児用ベッドの使用方法



点滴挿入中の抱っこの仕方



点滴管理の演習



看児のケアの仕方

## 朝食100円キャンペーンのお知らせ

自治医科大学では、朝の1限目から学問に励んでいただくために、朝食100円キャンペーンを実施しています。親元を離れて寮生活を送る学生さんからは、栄養バランスのとれた朝食が安く取れると好評をいただいております。



券売機で食券を買います



実際の朝食メニューです



ある朝の学生食堂の風景

## 宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センターの見学

平成29年9月16期生8名が宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センターを見学しました。当日は研究センター教授の松田勝先生が90分に渡って人工気象室や遺伝子改変したメダカ等について熱心にご説明いただきました。学生たちは普段あまり見る機会のない緑色蛍光タンパク質が全身に発現するトランスジェニックメダカに見入っていました。



人工気象室の説明を受けています



人工気象室の内部です



遺伝子録の説明を受けています



遺伝子導入したメダカに見入っています

## 看護学部校舎外壁リニューアル工事

平成29年11月から開始された看護学部校舎外壁リニューアル工事が平成30年3月に完成致しました。これまでの看護学部校舎の外壁は白く塗装されていただけでしたが、新たに赤茶色のラインが描かれ、モダンな外壁となりました。また、エントランスも新たにグレーの背景に、自治医科大学看護学部と白文字で描かれています。



工事が終了した看護学部校舎



新しくなったエントランス

## くすし 薬師祭の紹介

3年 津久井 理央（栃木県立大田原女子高等学校出身）



私は、昨年度の薬師祭副実行委員長として薬師祭の運営に関わらせていただきました。薬師祭とは、自治医科大学の学園祭のことです。毎年、医学部生と看護学部生が主体となって作り上げています。第46回薬師祭では、学生だけでなく教職員の方々や協力してくださる地域の方々など、薬師祭に関わる全ての人に笑顔になっていただきたいという願いを込め、「笑顔満祭～四六夢中になれ！～」というテーマにしました。沢山の方々のご協力のおかげで「笑顔満祭」の字の如く、笑顔の溢れる薬師祭になったのではないかと考えています。

当日は学内団体・学外団体を問わず、アイデアに溢れる模擬店や展示、ダンス部のMORLや軽音楽部のJFCによるライブパフォーマンス、有名アーティストやお笑い芸人をお呼びしてのライブ、バザーや花火などで連日賑わいを見せます。また、血圧測定などの医療体験、妊婦や高齢者体験が出来るブースなど、医療系大学ならではの企画も盛り沢山です。学生が日々学んでいることを、ご来場くださった方々に様々な形で知っていただけるのも薬師祭の魅力の一つではないでしょうか。

薬師祭は実行委員会の力だけでは決して成り立ちません。協力してくださる方々や教職員の方々、参加してくれる学生、足を運んでくださる方々がいてこそその薬師祭です。どのような参加の形でも構いません。是非とも足を運んでみてください。決して後悔はさせません。私たち薬師祭実行委員会一同、皆様のご来場を心よりお待ちしております。



熱かった4年生のラストステージ



後夜祭の4年生の学年ダンス



ソフトボール部によるぎょうざ販売



4年生男子によるアイスの出店

第47回  
薬師祭の  
ご案内

自治医科大学学園祭「第47回薬師祭」が10月5日（金）～7日（日）の3日間、自治医科大学キャンパスにて開催されます。今年のテーマは、「Re:Lation」です。この言葉には、全国47都道府県の繋がり、自治医大と地域の繋がり、人との繋がりなど様々な繋がり～relation～の大切さを感じられるような薬師祭にしたいという思いが込められています。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

## 平成30年度 年間スケジュール

前 学 期							後 学 期							
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
前学期授業開始(3日)	入学式(6日)	春季休業(28日～5月6日)	創立記念日(14日)	オーブンキャンパス(19日)	1・2年次定期試験(12日～13日)	オーブンキャンパス(28日～31日)	夏季休業(8月8日～9月24日)	オーブンキャンパス(24日)	後学期授業開始(3日～5日)	再試験(3日～5日)	薬師祭(学園祭5日～7日)	冬期休業(12月22日～1月3日)		
卒業式(1日)	学年末休業(16日～)	2月	再試験(22日～25日)	3月	1・2年次定期試験(4日～8日)	1月	2月	3月	学年末休業(16日～)	卒業式(1日)	学年末休業(16日～)			
1年	「対象の理解実習」 6/4～6/8	2年	「日常生活援助実習」「成人期継続療養看護実習」 9/20～10/4	3年	「日常生活援助実習」「成人期継続療養看護実習」 10/9～10/22	4年	「前学期実習(5科目)」 5/7～7/20	「総合実習」 7/23～8/3	「後学期実習(3科目)」 11/19～2/15	全体会	春季休業 4/28～5/6	夏季休業 8/8～9/24	冬季休業 12/22～1/3	学年末休業 3/16～

## 看護学部 学科目別教員一覧 (平成30年5月1日現在)

学科目	職位	氏名	備考	学科目	職位	氏名	備考
看護基礎科学	教授 准教授 准教授 講師 講師	大塚 公一郎 倉科 智行 平尾 温司 鹿野 浩子 関山 友子	学生委員長 学年担当アドバイザー総括 1学年担当アドバイザー	母性看護学	教授 准教授 准教授 講師 講師	成田 伸 野々山未希子 角川志穂 望月明見 北守美佳	国家試験対策委員長 4学年担当アドバイザー
基礎看護学	教授 教授 准教授 講師 講師 助教 助教	本田 芳香 小原 里光 福田 順子 八木 街子 湯山 美杉 石井 容子 高山 溫子	1学年担当アドバイザー	小児看護学	教授 准教授 助教 助教	横山 由美 田村 敦子 手塚 園江 小西 克恵	教務委員長 3学年担当アドバイザー
地域看護学	教授 教授 講師 講師 助教 助教	春山 塚本 青木 江角 島田 土谷 横山 塚本 友栄 さぎ里 伸吾 裕子 ちひろ 純香	看護学部長 広報委員長 4学年担当アドバイザー 3学年担当アドバイザー	成人看護学	教授 准教授 講師 講師 講師 助教	佐藤 幹代 長谷川 直人 中野 真理子 藤巻 郁朗 古島 幸江 佐々木 彩加 渡邊 賢治	2学年担当アドバイザー
精神看護学	教授 教授 講師 講師 助教 助教	永井 半澤 石井 佐藤 富川 優子 節子 慎一郎 貴紀 明子	4学年担当アドバイザー	老年看護学	教授 准教授 講師 講師 講師 助教	川上 勝 浜端 賢次 清水 みどり	3学年担当アドバイザー 2学年担当アドバイザー
				総合科目	助教	鈴木 美津枝	
				兼務	教授	村上 礼子	看護師特定行為研修センター本務

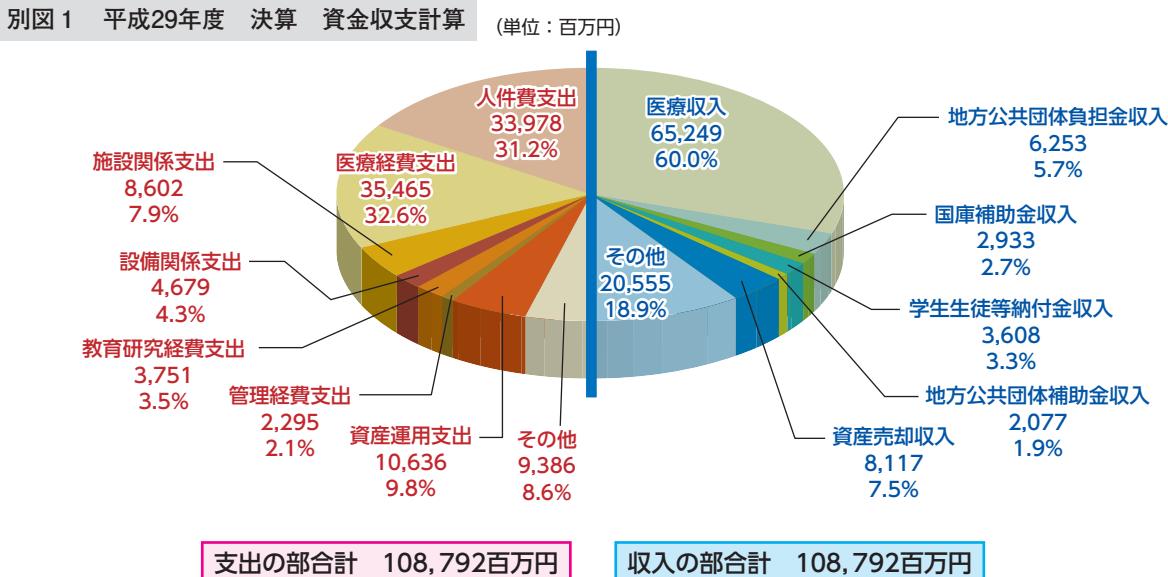
# 平成29年度 学校法人自治医科大学決算について

5月31日(木)に開催された理事会及び評議員会において、平成29年度学校法人自治医科大学決算が承認されました。決算の概要は次のとおりです。  
※財務状況等の詳細は、大学ホームページ [http://www.jichi.ac.jp/gaiyo/public\\_info/index.html](http://www.jichi.ac.jp/gaiyo/public_info/index.html) の「情報公開」でご覧になれます。

## 1. 平成29年度 学校法人自治医科大学決算について

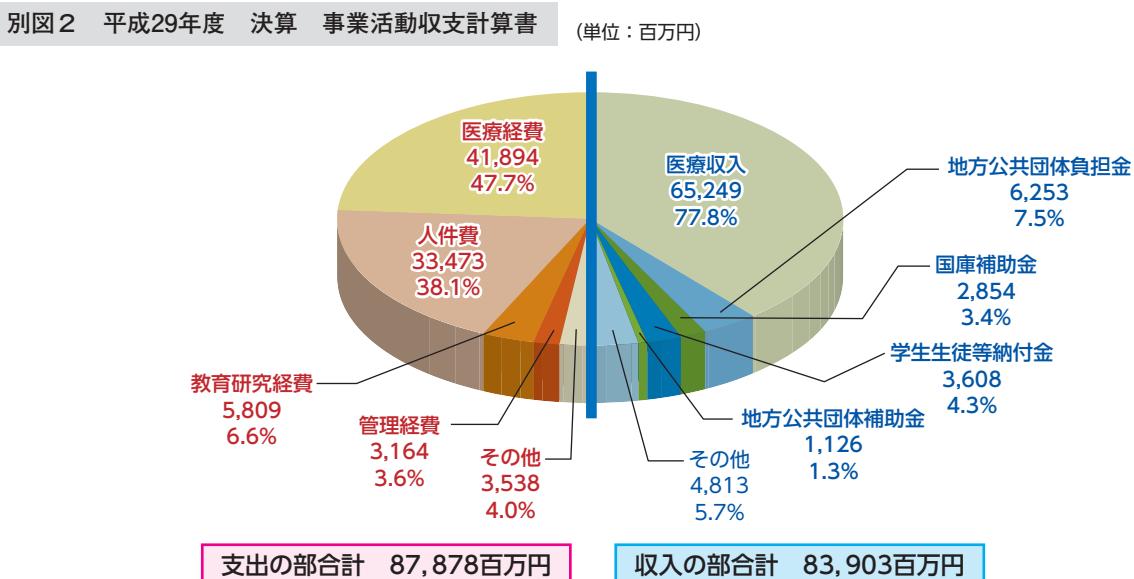
### ・資金収支計算書（別図1）

1年間に実際に収入又は支出した金額（現金ベース）を主として科目別に分類して表した決算書です。



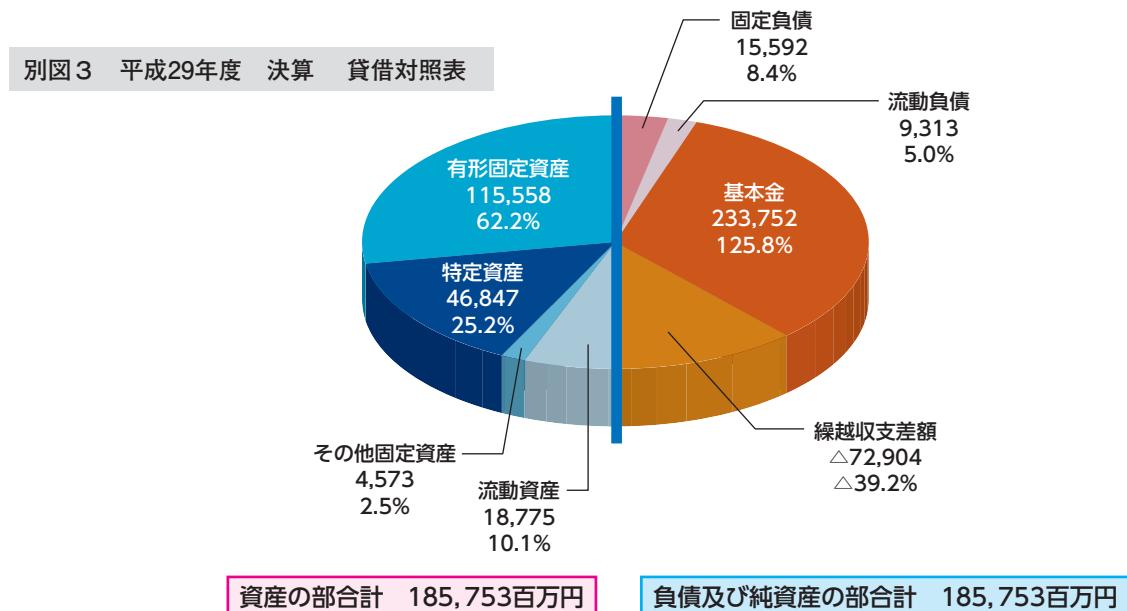
### ・事業活動収支計算書（別図2）

企業会計で用いられている損益計算書と類似しており、学校法人の経営状況を表した計算書です。



#### ・貸借対照表（別図3）

29年度末時点での固定資産や現預金、負債等の保有状況を表した財務書類です。



## 2. 平成29年度事業の概要について

看護学部は、4年間の教育課程を通じて、豊かな人間性を涵養することに力を注ぎ、高い資質と倫理観を有し高度医療と地域の看護に貢献できる看護職者を育成するため、次の取組を実施しました。

### ① 学生教育に関すること

- これまでの看護師・保健師・助産師の国家試験における高い合格率を維持するために、国家試験を受験する4年生を対象に国家試験対策ガイダンスを4月に、3年生を対象に11月に開催しました。併せて、国家試験模擬試験（4年生対象／看護師3回・看護師必修（選択）1回・保健師2回、3年生対象／1回）と、4年生を対象に国家試験対策ゼミを計23回開講しました。
- 実習教育の充実のため、メディカルシミュレーションセンターを活用し、一次救命処置研修会等を実施しました。
- ブータン医科大学に教員3名、学生3名を9日間派遣し、積極的な大学間交流を実施しました。

### ② 学生の受入れ・支援に関すること

- 学生生活支援に係る看護学部独自の奨学金制度や看護学生寮等をアピールした広報等、オープンキャンパスや進学説明会において効果的かつ重点的な広報活動を行い、志願者確保に努めました。
- 相談ルームレターを定期的に発行し、また、学年担当アドバイザーなどの教員を通して、看護学部生、看護学研究科大学院生に対する学業・生活・進路などの相談ができる相談ルームの存在を学生に案内しました。

### ③ 研究に関するこ

- 看護学部共同研究費による教員と看護職等との共同研究を昨年度より7件増の18件実施しました。また、臨地の看護職等に対し、研究の計画立案及び実施に関する支援を14件実施しました。さらに臨地での看護研究に係る指導者育成を目的として師長を対象とした講義を実施しました。
- 研究費獲得促進のため、教員向けに教育研究ミーティングを開催し、活発な情報交換を行い、平成30年度文部科学省科学研究費申請件数が平成29年度より4件増となりました。また、間接経費による研究補助者1名を雇用し、データ集計等の作業の効率化が図れました。
- ブータン医科大学教員との共同研究に関し、日本での調査を実施するとともに、ブータンにおいて研究打合せを行った。

### 編集後記

ビタミンN15号は、看護学部のイベントを読者の皆様にライブ感覚でお伝えするため、今回もスタッフで厳選した写真を掲載しております。皆様からのご感想をお待ちしております。（担当 平尾、望月、荒川）

ビタミンN 第15号

発行日 平成30年7月13日

発行 自治医科大学看護学部

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-159

T E L 0285-58-7409 (看護総務課)

E-mail vitaminen@jichi.ac.jp